

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	言語聴覚障害概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 木曜1限	教室名	4校舎401
担 当 教 員	小川・矢部・酒井	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
さまざまな言語聴覚障害の特徴や発生メカニズム, 評価や診断法, リハビリテーションを知り, 言語聴覚士の業務を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験(筆記)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
適宜プリント配布						
《授業外における学習方法》						
随時、授業の最初に前回授業内容に係わる確認問題を実施するので、復習しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
言語聴覚士になるための第一歩となる科目です。興味、関心をもって、これから学ぶ土台作りをしてください。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚士の仕事を理解し説明できる。	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士が行う評価、診断、訓練について概観する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声障害・構音障害の概要を説明できる。	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	音声障害の定義と分類について学ぶ。 構音障害の定義と分類について学ぶ。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚障害の分類を説明することができる。	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	聴覚障害の分類とその特徴について学ぶ。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語発達障害の分類を説明することができる。	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	言語発達障害の分類とその特徴について学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚士の業務, 言語聴覚領域の歩みを説明することができる。	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を通読しておくこと	
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士の業務, 活躍する場, 言語聴覚領域がたどってきた道について学ぶ。			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 高次脳機能障害の背景にある症状を説明することができる。	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を 通読しておくこと
		各コマにおける授業予定 意識障害、注意障害、記憶障害、失行・失認について学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 失語症を説明することができる。 吃音を説明することができる。	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を 通読しておくこと
		各コマにおける授業予定 古典型失語症候群について学ぶ。 吃音について学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 摂食・嚥下のメカニズムを説明することができる。	教材、 配布資料、 スライド	事前学習として該当頁を 通読しておくこと
		各コマにおける授業予定 摂食嚥下に関わる器官、メカニズム、年齢的变化について学 ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標		
		各コマにおける授業予定		